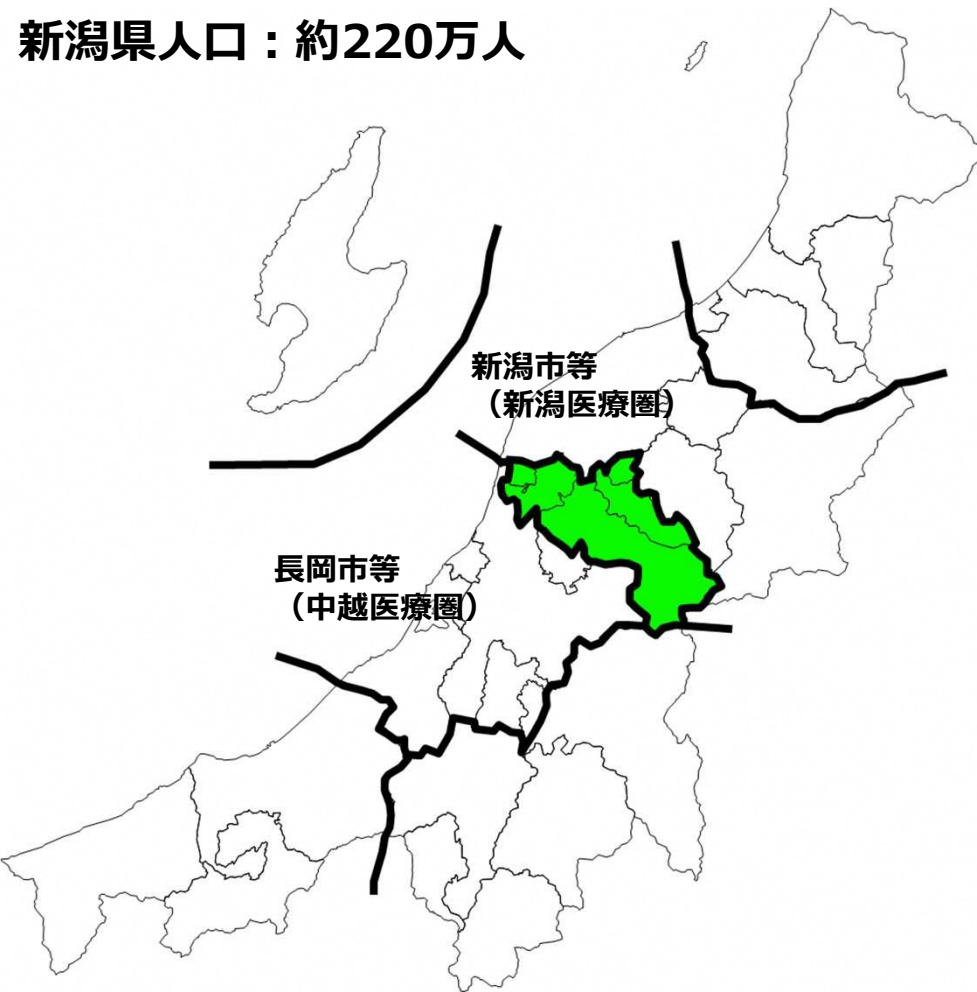


県央地域の医療再編と 県央基幹病院の整備について

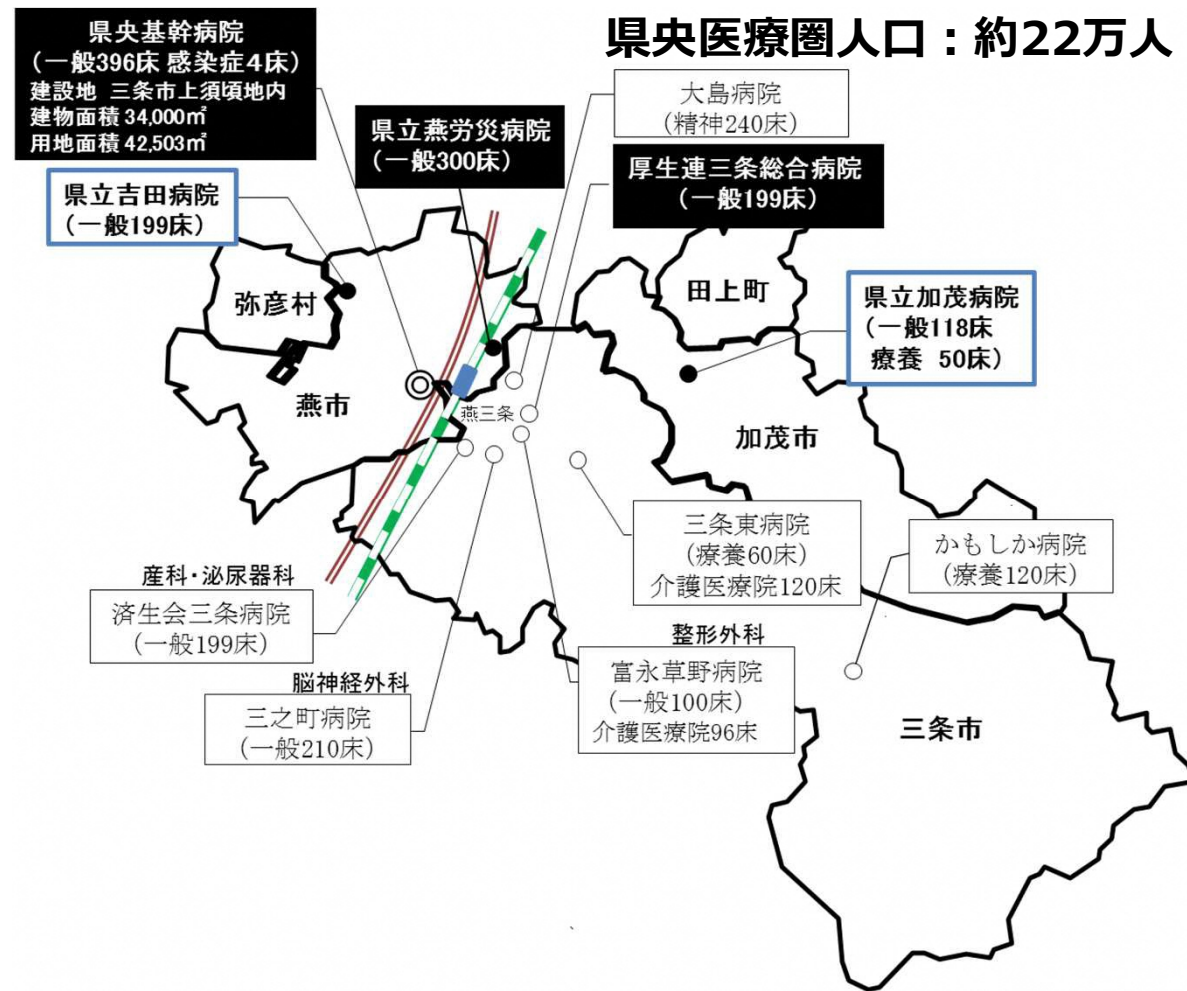
新潟県

1 県央医療圏の現状と課題

新潟県人口：約220万人



県央医療圏人口：約22万人



1 県央医療圏の現状と課題

(1)医療提供体制の課題(圏域内で救急医療対応等ができていない)

- 約8,000件の救急搬送のうち約25%が医療圏外へ搬送
- 中小規模の病院が多数存立し、医師が分散したことや、常勤医師の減少、高齢化等から、救急車の受入縮小・困難となり、救急搬送時間が長時間化。診療科、診療日も減少。

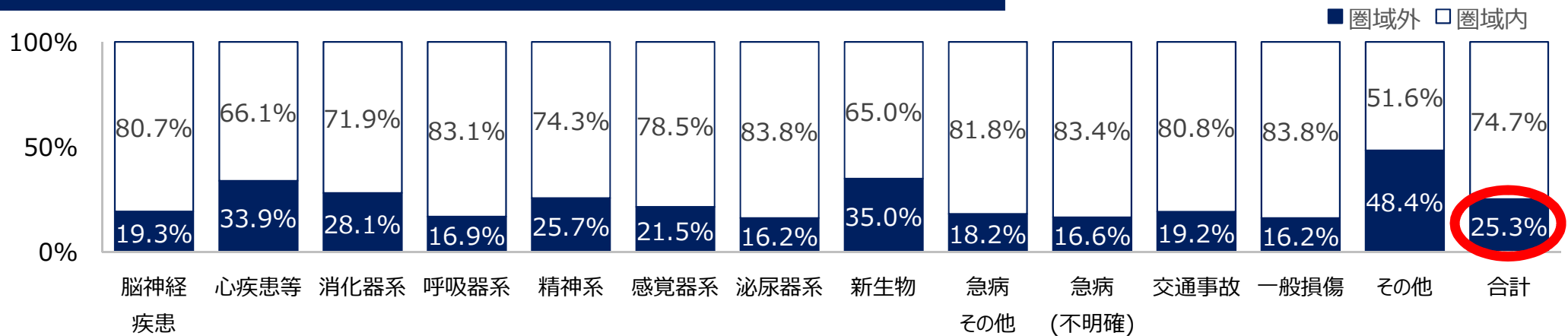
(2)医療ニーズの変化(高齢者医療への対応)

- 75歳以上人口は今後も増加
- 高齢者患者の特徴「多病、多様、非定型」に対応できる持続可能な医療体制の構築が必要

1(1) 医療提供体制の課題(救急搬送状況①)

圏域内で救急医療対応ができていない

圏域外搬送25%以上（2014年 18.6%→2019年 25.3%）



あらゆる領域の疾患が圏域外へ搬送

	急病										交通事故	一般 負傷	急病外 その他	合計
	脳神経 疾患	心疾患	消化器 系	呼吸器 系	精神系	感覚器 系	泌尿器 系	新生物	その他	不明確				
総数	570	569	523	539	109	321	266	120	780	1,344	556	1,154	1,508	8,359
圏域内	460	376	376	448	81	252	223	78	638	1,121	449	967	778	6,247
圏域外	110	193	147	91	28	69	43	42	142	223	107	187	730	2,112

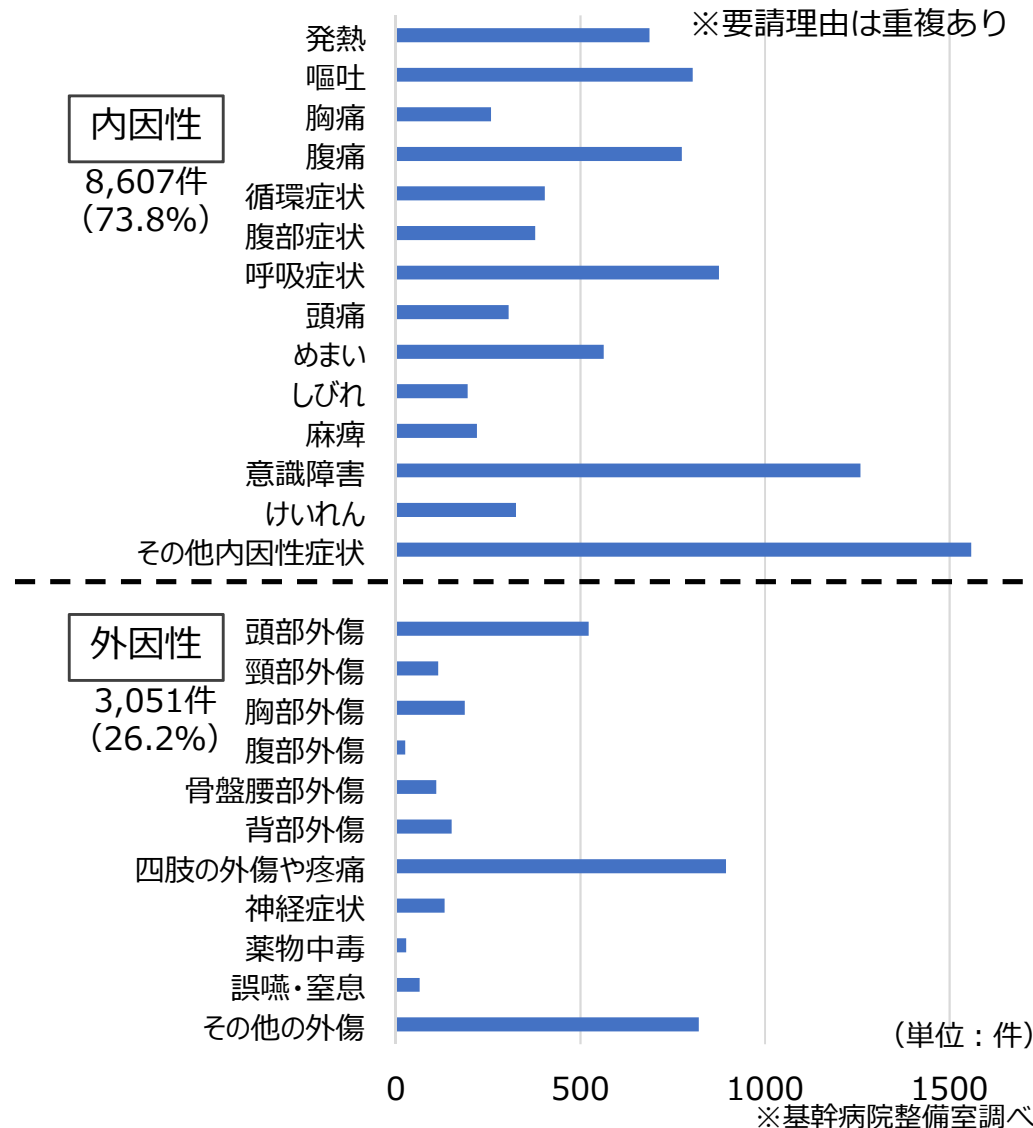
(単位: 件)

出典: 県央医療圏救急搬送調査(基幹病院整備室)

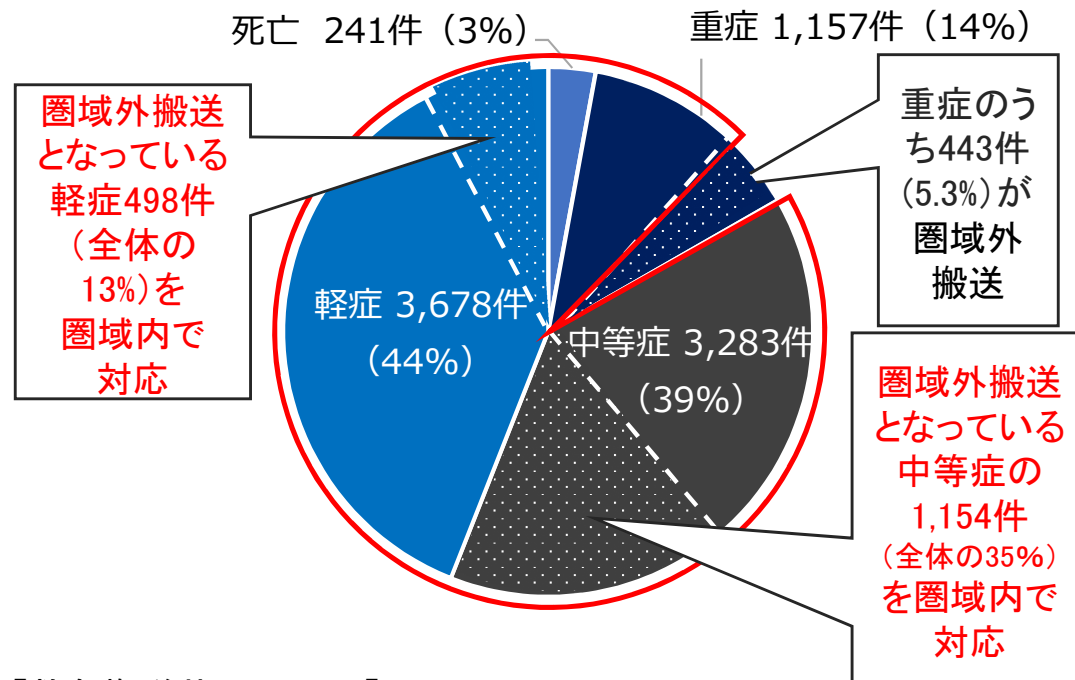
1(1)医療提供体制の課題(救急搬送状況②)

重症のみならず、中等症や軽症患者も一定数が圏域外（新潟市、長岡市）へ搬送

【救急要請理由（2019）】＝原因



【救急搬送状況（2019）】＝結果



【救急搬送状況(2019)】

救急搬送 8,359件(圏域内6,247件、圏域外2,112件)

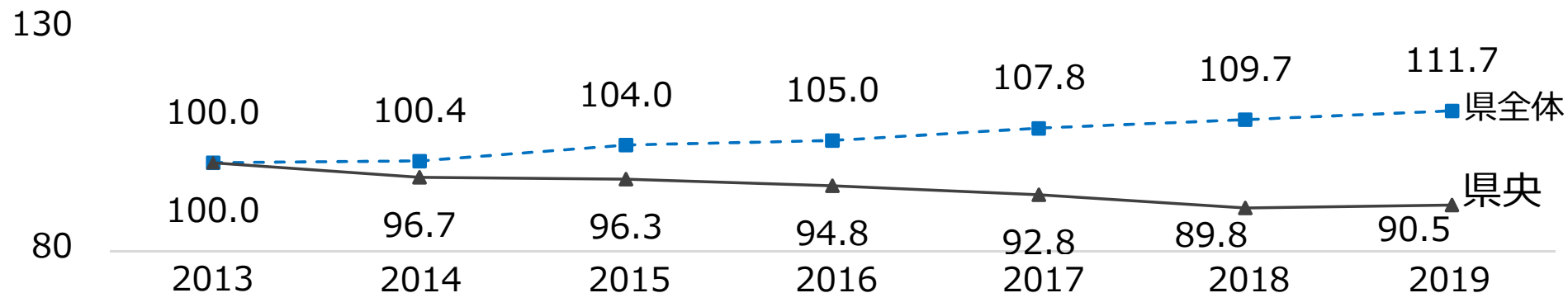
圏域外搬送を改善
→圏域内搬送を95%程度に!
(県央基幹病院＋地域密着型病院等)

出典：救急患者搬送先医療機関調査(医務薬事課)

1(1)医療提供体制の課題(病院勤務医の状況①)

常勤医師は90%程度までに減少

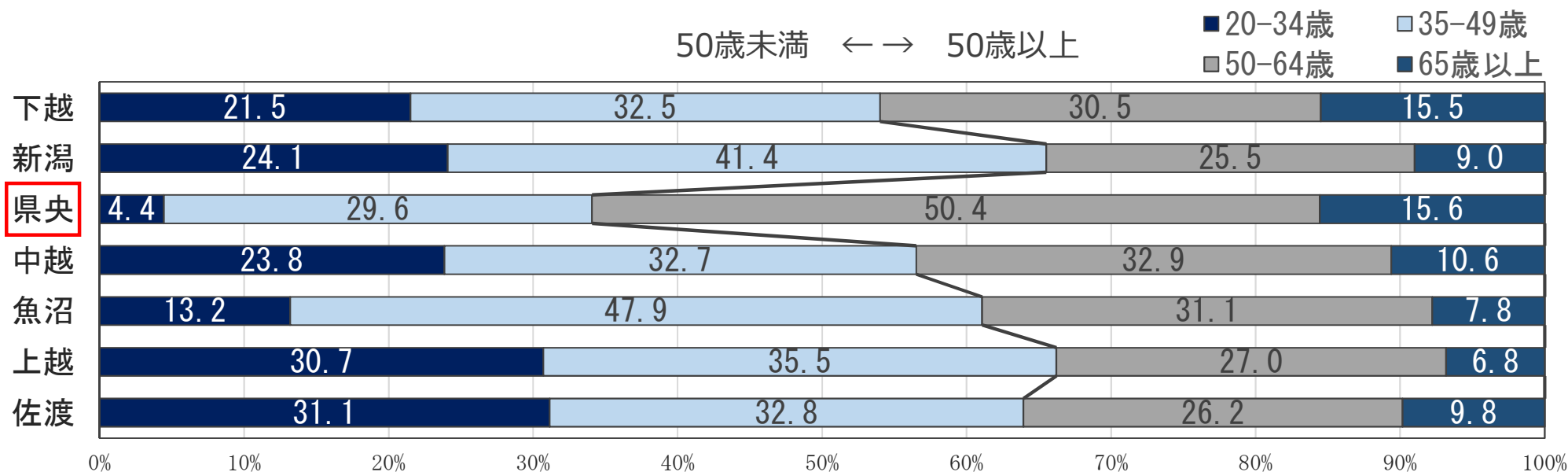
【救急告示病院の医師数(常勤換算)の推移】
(2013を100とした場合の指数)



出典：県病院協会会員名簿

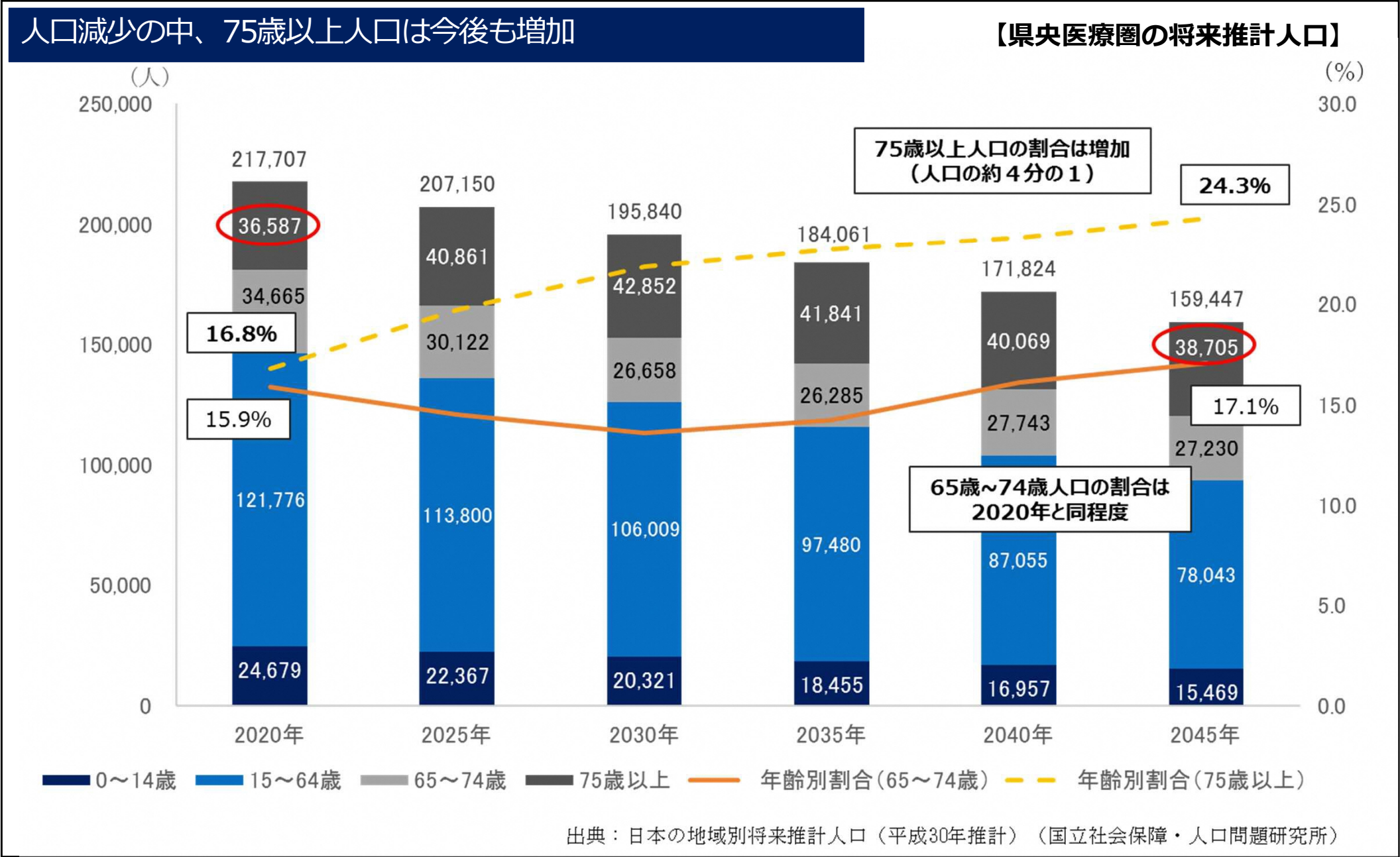
若手医師が少なく、勤務医は高齢化

【病院勤務医の年齢階級別構成比(2016)】



出典：二次医療圏別医師数データ集 -医師の地域別・診療科別偏在と将来推計に関する地域別報告(日医総研)

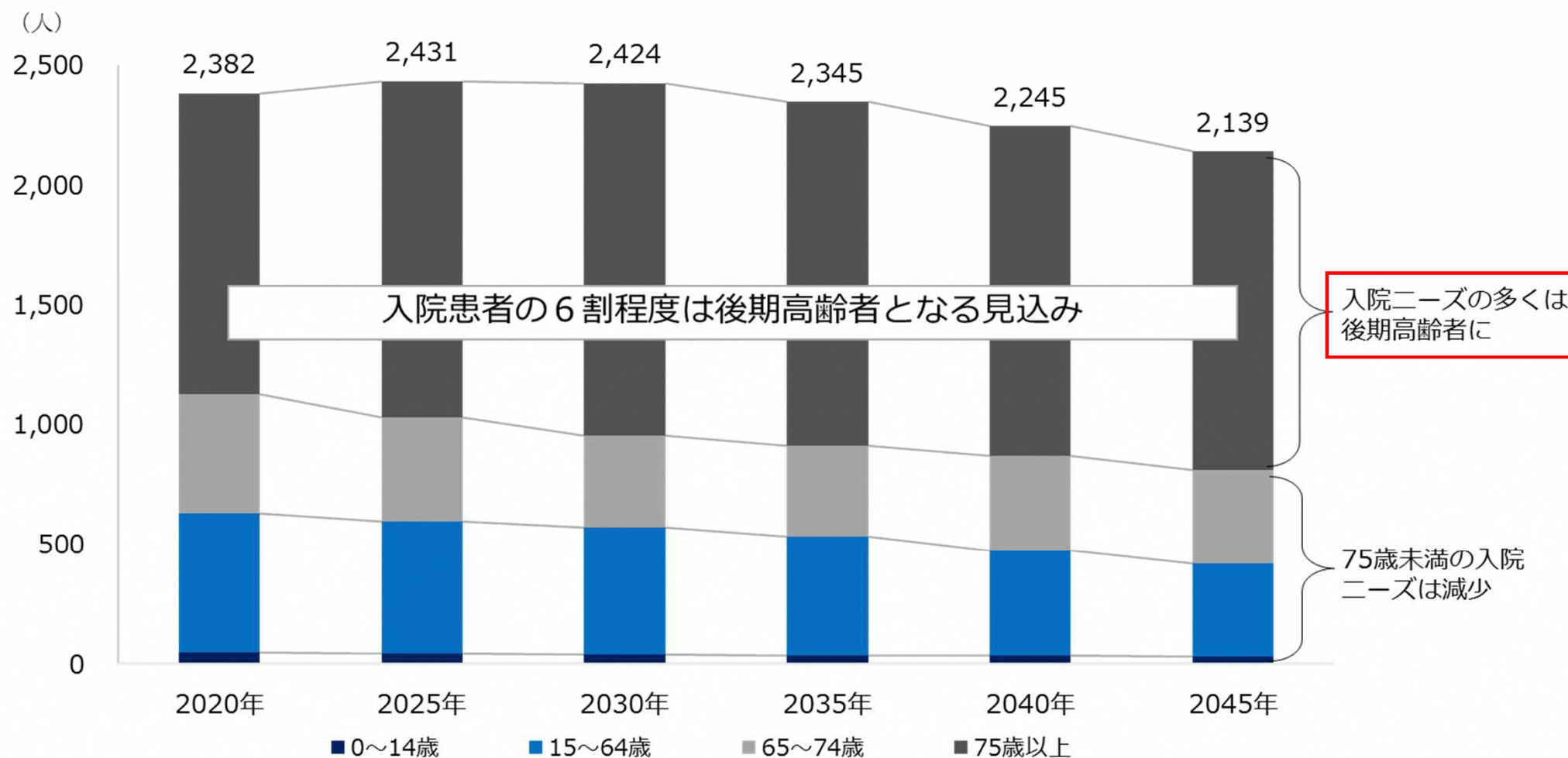
1(2) 医療ニーズの変化①(若年層の急激な減少と後期高齢者の増加)



1(2) 医療ニーズの変化②(高齢者医療ニーズの増加①)

高齢者医療ニーズの増加

【県央医療圏の将来推計人口】

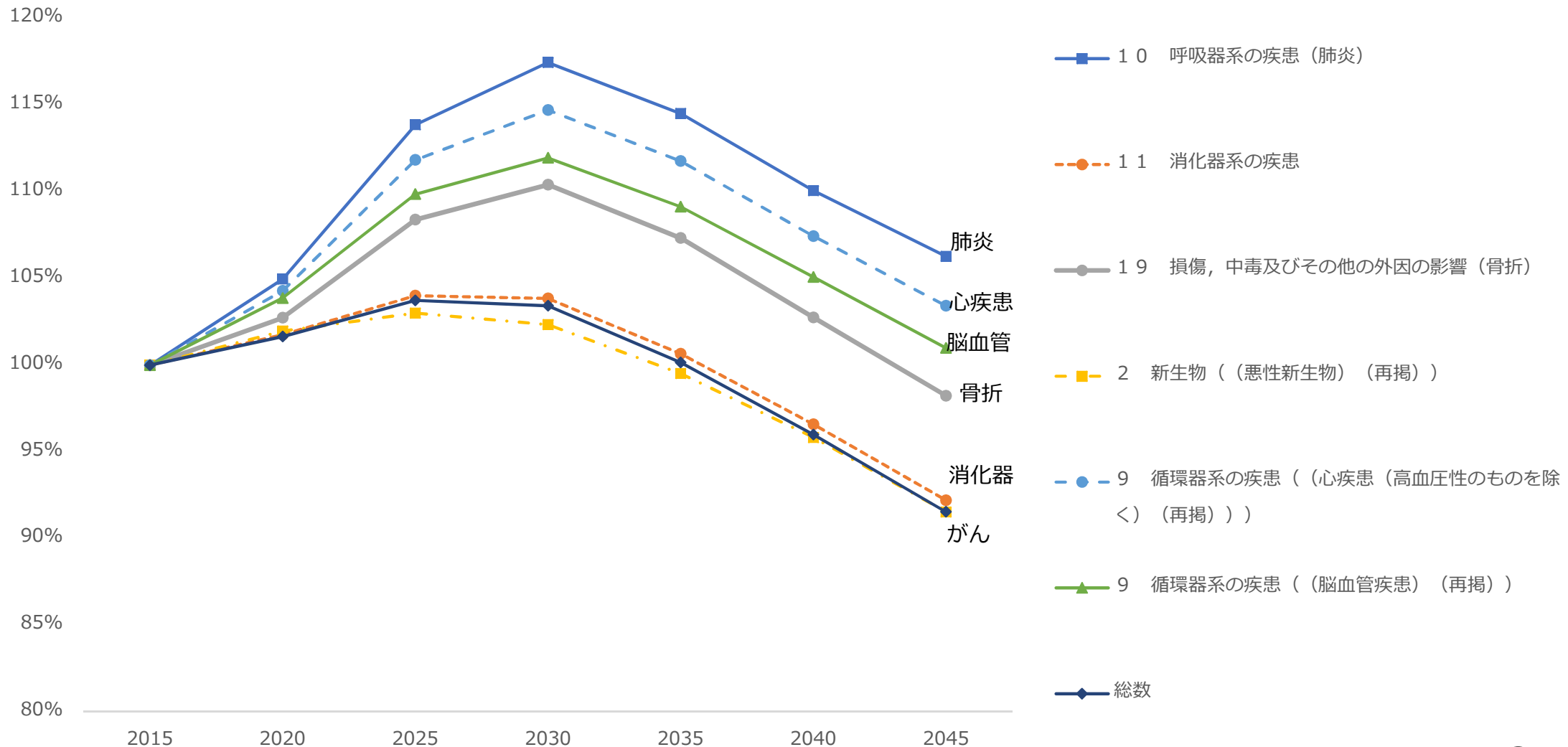


資料：平成29年患者調査（厚生労働省）、社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

1(2) 医療ニーズの変化②(高齢者医療ニーズの増加②)

- 高齢者に多くみられる肺炎などは2030年まで増加する一方、高度専門的な手術や医療を要するがんなどは減少していく見込み

15新潟県 1503県央 入院患者推計



1 県央医療圏の現状・課題への対応

今後の医療需要等に対応するため、県央地域全体の医療再編が必要

- 圏域内で救急医療対応ができていない
 - 基幹病院（地域で高度な医療を支える柱となる病院）を整備し、基幹病院を中心に圏域内の他の医療機関と役割分担、協力しながら最大限（95%程度）患者を診る
- 高齢者医療等への対応
 - 症例が増える高齢者医療や軽症を中心とした救急・一般的な外来は、医療需要等に合わせて、できるだけ身近な地域密着型病院等で診る
 - 症例が減る高度、専門的な医療や重症を中心とした救急・専門的な外来は基幹病院に集約し、医療の質を高め、医師を育てられる環境も整備



○「地域で高度な医療を支える柱となる病院」として、県央基幹病院を整備し、救急医療や高度・専門的な手術、外来が必要となったときに、質の高い医療を提供

○ニーズの多い入院（後期高齢者・軽症患者等）・外来については、地域包括ケアを支える地域密着型病院（済生会三条病院、県立加茂病院、吉田病院）等に対応

県央地域の医療再編と 県央基幹病院の整備

再編後の
各医療機関の
役割分担

医療ニーズに合わせ医療資源(医師等)を集約し、「専門的な手術や救急に対応する病院」(済生会新潟県央基幹病院)と「日常の身近な外来や入院を中心に対応する病院」(地域密着型病院)、診療所などで役割分担し、地域に必要な医療を提供していきます。

それぞれの病院、診療所に上手にかかりましょう。

まずは、身近な診療所、病院のかかりつけの医師の診察を受けましょう。



診療所・クリニックを探すには…

にいがた医療情報ネット
NIGATA Medical Information Network

あなたに合った
医療機関や
薬局が見つかる
ウェブサイト
(運営:新潟県)

日常の身近な外来
診療所・クリニック

❖ 入院治療の必要がなく、
帰宅可能な患者に対応

休日・夜間の救急(軽症中心)
県央医師会応急診療所

連携

新潟・中越医療圏救命救急センター

超急性期の脳卒中や心臓血管外科手術など、
一部のより高次の救急医療、高度専門医療(県央
地域の救急搬送件数約8千件のうち約5%、400件
程度)について、連携・協力

連携

大切なお子さんやご自身・
ご家族の急な病気やケガの時に
どうすべきか迷ったら…

AI救急相談アプリ

チャットで相談 利用料無料
症状から緊急度を判定できます。
ご利用はLINEで友だち追加するだけ!



●大人(概ね15歳以上の方)を対象
救急医療電話相談
県内のプッシュ回線・携帯電話からは **#7119**
ダイヤル回線・IP電話・PHSからは025-284-7119

●15歳未満のお子さんを対象
小児救急医療電話相談
県内のプッシュ回線・携帯電話からは **#8000**
ダイヤル回線・IP電話・PHSからは025-288-2525

●相談時間:毎日(19時~翌朝8時)
医療機関受診の必要性や対応方法などについて
助言をもらえます。(運営:新潟県)

公立・公的5病院の医療再編

日常の身近な外来・入院 平日・日中の救急(軽症中心)

地域密着型病院(3病院)



済生会 三条病院
(120床、三条市)



県立加茂病院
(80床、加茂市)



県立吉田病院
(110床、燕市)

- ❖ 日常の身近な外来診療
- ❖ 慢性疾患をもつ高齢者などの入院診療、重症化予防
- ❖ 急性期を脱した患者の県央基幹病院からの転院受入れ
- ❖ 平日・日中の軽症患者を中心とした救急受入れ

紹介・逆紹介

紹介

専門的な手術や治療が必要な患者を紹介
●紹介状により、検査や投薬の重複を防ぎ、
適切な治療につなげます。

逆紹介

病状が安定した患者を身近な病院に紹介
●転院して、リハビリなど回復期の診療を
行います。

紹介・逆紹介

救急・専門医療の中心(外来は原則紹介制)

済生会新潟県央基幹病院



令和6年3月1日開院予定
(400床・三条市)

・燕労災病院、三条総合病院を統合
・地域医療支援病院
紹介受診重点医療機関

- ❖ **断らない救急(ER救急※)体制整備**
※ER救急:他の医療機関との役割分担を前提に圏域内の最後のとりとして、重症度、傷病の種類、年齢に関わらず、すべての救急患者を診療する「断らない救急」
- ❖ **手術等の急性期医療・専門的な入院医療に重点化**
内科(循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、内分泌内科、腎・膠原病内科、血液内科)、脳神経内科、精神科、小児科、外科(循環器外科、消化器外科、呼吸器外科、泌尿器科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、救急科、リハビリテーション科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診療科、総合診療科)の22科を基本。
- ❖ **基幹型臨床研修病院として、医学生の実習受け入れや臨床研修医・専門医の育成、総合的な診療能力の育成**

専門領域の医療・救急

三之町病院(脳神経外科)
富永草野病院(整形外科)
大島病院(精神科)

連携

慢性期の医療

三条東病院
かもしか病院

連携

連携

連携

介護施設等

介護・福祉との円滑な連携

2 済生会新潟県央基幹病院



- 厚生連三条総合病院と県立燕労災病院が統合し、三条市に令和6年3月1日（金）に開院予定
(2病院は3月1日に引っ越し、跡地に病院機能は残りません)
- 病床数 400床：一般396床（急性期）、感染症4床
- 運営主体：新潟県済生会（指定管理者）
- 外来診療は3月4日（月）から開始、徐々に診療機能を拡大
産科など一部の診療科は4月1日（月）から診療開始へ

1 断らない救急（ER救急）体制整備を目指す

- 疾患、病状の区別なく、広く救急患者の受け入れを目指します
- 地域の病院、応急診療所と役割分担
 - ・ 県央地域全体の救急件数約8,000件のうち、県央基幹病院では6,000件程度を受け入れることを目指し、段階的に受入れを拡大
 - ・ 平時日中の軽症などは地域密着型病院、夜間の軽症は応急診療所で受入れ
- 心臓手術、脳血管障害の一部は新潟・長岡へ
(県央地域の救急搬送件数約8千件のうち約5%、400件程度)

2 手術等の急性期医療・専門的な入院医療に重点化

- 外来は原則紹介制、予約が必要
- 入院は重症、専門治療を要する急性期の医療を担当

内科（循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、内分泌内科、腎・膠原病内科、血液内科）、脳神経内科、精神科、小児科、外科、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、救急科、リハビリテーション科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診断科、総合診療科の22科を基本に調整中

県央基幹病院のハード整備

1 救急を重視したハード整備

<設計>

- 救急外来は多くの救急搬送患者を受け入れるため、災害医療における優先度（C S C A）の思想のもと、視認性のよさ・機動性の高さが得られる設計

- 指揮統制
- Command&Control 指揮所
 - Safety 感染予防
 - Communication スタッフ同士の意思伝達
 - Assessment 診療体制、診療進展度の評価

- 救急搬送患者が迅速に検査を受けられる放射線機器の配置

<機器整備>

- 救急医療・急性期医療の中心となる病院として必要でパフォーマンスが高く、患者の身体に負担の少ない治療を可能とする機器を整備
- 地域密着型病院との共同利用

2 ICT活用の医療システム導入

- 情報収集を素早く、時間・場所に縛られない環境を整備
 - ・救急医や上級医によるコンサルト
 - ・多職種コミュニケーション
 - ・救命救急センターとのデータ共有等による診療支援
 - ・職員の働き方改革への対応

3 感染症対策に工夫した設計

- 感染症対応のため陰圧仕様の個室や多床室を設置
- 感染症拡大時には7階A病棟を感染病棟として、レッドゾーン（感染者支援エリア）、イエローゾーン、グリーンゾーン（通常支援エリア）にゾーニング
- そのほか、救急外来に感染症対応外来、1階に発熱外来スペースを確保



←県央基幹病院の3D動画はこちらから 13

》医師

- 開院時70名以上を目標
- 救急・総合診療科10名以上の体制を予定するなど、医師確保を進めています

》看護師・メディカルスタッフ

- 看護職員は400名以上、その他メディカルスタッフは150名以上を既に確保
- 開院に必要な医療スタッフは十分確保できる見込みです

3 地域密着型病院



済生会三条病院
(120床、三条市)



県立加茂病院
(80床、加茂市)



県立吉田病院
(110床、燕市)

【主な診療機能等】

- 日常の身近な外来医療
- 慢性疾患をもつ高齢者などの入院診療、重症化予防
- 急性期を脱した患者の県央基幹病院からの転院受入
- 平日・日中の軽症者患者を中心とした救急受入れ

診療所・クリニックや病院を適切に使い分けましょう①

済生会新潟県央基幹病院

病院・診療所



専門的な医療が
必要な場合

紹介

軽症の場合や
症状が安定した場合

逆紹介



病院・診療所

○風邪や下痢、軽度の裂傷など身近な病気やけがに対応
○専門性や高度な医療の必要性に応じて、他の適切な医療機関へ患者を紹介
○回復期に入った患者を県央基幹病院から受け入れ、回復支援・リハビリなどを受けて復帰を図ります

県央基幹病院

○病院・診療所などからの紹介に応じて、重い病気や深刻なけがにより高度：専門的な医療サービスを必要とする患者を受け入れ

診療所・クリニックや病院を適切に使い分けましょう②

- 「風邪をひいた」「熱がある」「お腹の具合が悪い」など、体の不調を感じたら、まずは、身近な病院・診療所を受診しましょう。
- できれば、近くの診療所、病院などの中から、あなたの「かかりつけ医」を決めておくことをお勧めします。
- 1つの病院の患者さんが集中しては、患者さんに適切な医療を提供できなくなるため、各病院が役割分担をして対応します。
- まずは、かかりつけ医に相談、診察してもらってください。
さらに検査や治療が必要な場合、かかりつけ医から紹介状をもらい、県央基幹病院を受診ください。

大切なお子さんやご自身・ご家族の
急な病気やケガの時にどうすべきか迷ったら

AI救急相談アプリ	救急医療電話相談	小児救急医療電話相談
・症状から緊急度を判定できます ・LINEで友達に追加するだけ！  	# 7 1 1 9 (または025-288-2525※) 大人（概ね15歳以上）を対象	# 8 0 0 0 (または025-288-2525※) 15歳未満のお子さんを対象
相談時間：毎日（19時～翌朝8時）		

※ダイヤル回線・IP電話・PHSの場合

よくあるご質問①

軽いけがや体の調子が悪くなったときに、どこに受診すればいいですか？ 県央基幹病院は、いつでも受診できますか？

まずは、近くの診療所、済生会三条病院、加茂病院、吉田病院などのかかりつけ医を受診してください。専門の医療が必要となった場合、医師からの紹介で県央基幹病院を受診することになりますが、緊急その他やむをえない場合は、紹介状なしでも県央基幹病院で受け入れが可能です。

現在、燕労災病院、三条総合病院に受診していますが、県央基幹病院の開院後はどこに受診すればよいですか？

燕労災病院、三条総合病院に現在通院中の方で、県央基幹病院開院時に引き続き治療が必要な場合、原則、継続して県央基幹病院に受診することになります。詳細は、現在診療を受けている担当医師にご確認ください。

よくあるご質問②

救急要請があれば、県央基幹病院で全て受け入れるのですか？

日中の軽症などの場合は、済生会三条病院、県立加茂病院、吉田病院でも受け入れます。

重症の場合や、夜間・休日の場合は、県央基幹病院で受け入れることが基本になります。

県央地域全体の救急件数約8,000件のうち、県央基幹病院では、6,000件程度を受け入れることを目指します。

さらに圏域内の他病院と応急診療所とも協力し、県央地域全体で救急患者さんを95%程度まで受け入れることを目指します。

【イメージ】

県央基幹病院	地域密着型病院、応急診療所等	新潟・中越医療圏 救命救急センター
6,000件程度	1,600件程度	400件程度

よくあるご質問③

救急車で運ばれた人は、完治するまで県央基幹病院に入院できるのですか？

県央基幹病院で治療が進むなど、一定程度病状が落ち着きましたら、他の病院に転院していただくことになります。

転院先となる地域密着型病院（済生会三条病院、吉田病院や加茂病院）等と県央基幹病院の間で、外来支援などの診療連携・協力を進め、安心して医療を受けられる体制を目指します。

テレビ、新聞に加え、SNS等を活用した積極的な発信



	開催日（放送日）	再生回数
建設進む県央基幹病院（TeNY）	令和5年7月26日	1,200回
断らない救急を目指して...県央基幹病院開院まで1年 見えてきた課題は（BSN）	令和5年3月1日	5,000回
断らない救急の実現へ「プレER救急」県央地域の医療再編（TeNY、日本テレビ）	令和4年9月1日	約21万回

「済生会県央基幹病院の開院まで半年 若手医療従事者の受け皿に」
（NHK、令和5年9月8日放送）

<https://www.nhk.or.jp/niigata/lreport/article/004/47/>



上記ほか、多数の報道あり

下記QRコードから
ご覧ください

